

全国石材技能選手権

日本一の石工技術を競う、全国石材技能士会

全国石材技能士会(石谷光司会長)では去る11月4日、香川県高松市を舞台に日本一の石工技術を競う「全国石材技能選手権(主催)全国石材技能士会・主管」香川県石材施工技術士会)を開催した。一昨年5月の兵庫県大会に続き2回目となった今回は高松・岡崎の両産地をはじめ全国各地から腕に自信のある若手からベテランまで18名の石職人が参加(最年少27歳、最年長49歳)。岡崎産地での修業経験者や技能五輪メダリストらも多数参加しており、レベルの高い熱戦が繰り広げられた。

午前8時、開始の合図と同時に一斉にスタート。サシガネを使い墨出しをした後、コヤスケ、ノミ、タタキ、ピシヤン等を使い、純粋な手加工で作品を仕上げていく。さすがに参加選手の道具さばきは抜群で、まるで自分の手のように扱っている。一つ一つの工程をスピーディにこなしながら、完成形に近づけていった。

競技の課題は、技能検定1級(石材加工作業)に順じるもので、5時間という時間内に仕上げなければならない。独特な固さを持つ「庵治石」が使用石種だったため、各選手とも時間との戦いも大きな課題となっていたようだ。

今大会への注目度は高く、研修を兼ねて訪れていた滋賀県石材組合をはじめ、次回参加を目指している石職人、1級技能士資格取得のために勉強しに来たという若手など、合計約100名の業界人らが来場。用意されたギャラリースペースには常に人だかりが出来ている状態だ。選手たちの一挙手一動を見逃すまいと食い入るように見入っていた。どちらかというと「営業」に傾注しがちな昨今の石材業界において、この「技術」に熱い視線を注ぐ光景は新鮮で印象的だった。

この熱戦を制したのはが三重県名張市の谷本雅一さん(31歳・株塚石材)。岡崎産地(株塚石材本店)での修業時に「第35回全国技能五輪」で優勝経験を持つほか、昨年開催された兵庫の部でも見事優勝。石材加工・石積み・石張りの三種目とも一級技能士資格を取得しているという実力者。大会前の約2ヶ月間、ほぼ毎日練習を繰り返してきたという努力家でもあり、当日は一番速いペースで課題作品を仕上げた。結果については「たまたま運が良かっただけです。これからも努力を怠らず精進していきたい」と話している。

第2回全国石材技能選手権・上位5名は左記の通り(敬称略)。
 ◇1位 谷本 雅一(三重)
 ◇2位 田部 哲朗(高根)
 ◇3位 楠名 康弘(愛知)
 ◇4位 高須 保雄(静岡)
 ◇5位 森 大輔(静岡)
 ※この他の参加選手は左記の通り(敬称略)。
 安部明(広島) / 上野武志(香川) / 大川弘展(香川) / 岡田昌臣(香川) / 落合賢(香川) / 景山功(大阪) / 加藤敏彦(滋賀) / 北村守(滋賀) / 小賀(北村守) / 田中真二(香川) / 中島正通(兵庫) / 中村泰之(滋賀) / 水田幸伸(兵庫)



熱戦が繰り広げられた大会会場(南松山石材運送車庫)



選手の一挙手一動を食い入るように見つめるギャラリー



純粋な手加工で課題作品を仕上げている



参加選手・関係者で記念撮影(前日開催された開会式にて)

腕の良い人は基本的に忠実。道具が自分の道具になりきっている
 審査委員長・小川長四郎

今回は上位5位までは90点以上というレベルの高い競技になったと思います。特に上位の方は甲乙付けがたい点数でした。素晴らしい出来栄でしたし、素晴らしい腕を持っていると思います。この方たちは将来、日本の石材業界を背負って立つ方でしょう。振り返ってみますと、良い点数を取る人は基本的に忠実で、道具が自分の道具になりきっている。ですから良い仕事をするには自分に慣れた道具を自分で作るということも大切だと感じました。次にもう少し勉強すればすぐに上位クラスに入れる方々。恐らく自分の腕は自分でわかっていると思います。家に帰ってから作品にさしがねを当ててみてください。上位の作品はさしがねが吸い付くようにピッタリとおさまります。さしがねが吸い付かない場合は、次の課題として練習していただきたい。そうすれば必ず上位になれると思います。選手の皆さんには今回の結果にとらわれず、今後もぜひ技能向上に取り組んでいただきたいです。(表彰式・総評より)

奥の深い 石屋の仕事に極めたい

谷本雅一さんに聞く

— 今の感想は? —
 谷本雅一さん(以下、谷本) 今回の大会はまたまた運が良かった。岡崎の修業時代に「伝説」になっていたような先輩と一緒に同じ舞台で競技出来たこと自体素晴らしいこと。これからも努力を怠らず精進していきたい。一番早いペースでした。話を聞いて自分でもびっくりしました。練習では早くても一面に45分かかっていた。今日はもう少し早くできたと思います。— どれくらい練習を? —
 谷本 この2ヶ月間は現場仕事の後、19時~22時くらいまで練習していました。20個くらい課題を作ったんですが、実は一つもまともなものはありませんでした。「庵治石」は、コヤスケなんかでギリギリまで石を取ろうと思うと、もってかれちゃう。だから、少し逃がしきみで、慎重に石を取っていくことを心がけていました。

— 誰に真を伝えますか? —
 谷本 この2ヶ月間、子供に伝えないで練習してきたので、まずは奥さんと子供に伝えたいですね。それから従業員さんにも手伝わしてもらい、集中して練習させていた環境を作ってもらいました。自分を支えてくれた全ての人に感謝しています。— 今後、どのような石材店を目指しますか? —
 谷本 石の仕事は、今回のような課題を作る技術だけでは万能とはいえません。総合的なテクニックが身に付いてないと駄目。今後は技能士会にも入らせて頂くので、ぜひ技術の伝承をしていけるような会社を目指したいです。



谷本 雅一さん

創業85年・技能五輪国際大会で3個の金メダルに輝く当社の実績

石材業を目指す若者の養成

石工研修生募集!!

119名の研修生養成の実績と指導力、即戦力と人間関係豊かな人材の育成・岡崎技術工学院に入校出来ます。

技能五輪大会に出場出来ます。

株塚石材本店 岡崎の石の公園団地内

〒444-0071 岡崎市稲熊町赤松6-13 電話(0564)24-6358番(工場) 51-3723番(社長宅)

“上州小松石”が復活!厳選吟味で納期確実

◎石の採掘産地と直結した超特級国産材専門の加工業者です。
 ◎天下の銘石として希少価値で人気上昇の本小松石を始め、稲田石の外欄など。
 ◎それに新たに、新推奨石塔・薄茶色系安山岩「上州小松石」が加わりました。
 この石は上州(群馬県)赤城山のおもとから産出する銘石として古くから知られる。
 ◎本山崎石も加工して在庫あります。
 ◎工場には機械類が完備しているので、特別な注文加工にも応じられます。

株式会社 タキイ石材

代表取締役 瀧井 淳雄
 茨城県桜川市青木2576
 電話(0296)58-7878番
 FAX(0296)58-7355番

事務所及び工場

本小松石(神奈川)
 稲田石(茨城)
 本山崎石(山梨)
 その他各種国産銘石